

清流のほとり



令和5年7月20日(木)発行

園長 津田 将美

おりあいをつける

幼稚園HPのQRコードで↑

園の近くの用水路からつかまえてきて、大切に育てていたカニが死んでしまいました。そのカニをどうするかを子どもたちが相談しています。

「地面に埋めてあげよう。」

「川に返してあげるといいんじゃない？」

子どもたちの考えが対立しました。

「地面の方が静かに眠れるよ。」

「川に住んでいたんだから、川の方がうれしいよ。」

根拠をもって自分の思いを伝えながらも、話は平行線です。教師は注意深くその様子を見守ります。

どちらも命と向き合って考えた、大切な自分の思いです。なかなか譲る気配はありません。でも、小さな命を尊重し、大切に思っただけの考えなのは変わりありません。その思いに寄り添い、どちらの考えも大切にしながら、より良い解決策が見つかるように、出すぎず任せすぎずに教師はねばり強く支援していきます。

お互いの考えを出し切り、表現しつくした結果、片方の子がおりあいをつけます。

「じゃあ、地面に埋めてあげよう。」

同じ思いをもって、真剣に考え話し合いながら結果が出た、何とも素敵な瞬間でした。みんなで納得して、カニを地面に返しにいきます。

いのちと向き合い、環境を考え、お世話をしながらも、それでも死んでしまったカニに対する真っ直ぐな思いをぶつけあった子どもたちの活動でした。

「かにをつかまえる」という遊びの発展として起こったこの出来事は、子どもたちにとっては、とても大切な経験となりました。自分の思いは大切。そして相手の思いも受け留めながら、どう折り合いをつけるか…。

大切なもののために、相手を受け入れ自分の考えを新たに作る柔軟さが子どもたちにはあります。そこから大人が学ぶものもたくさんあると思います。

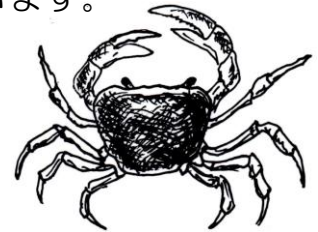
小学校の学習では、「主体的、対話的で深い学び」が学習指導要領に明記され、そのような学びを繰り返していく中で、「主体的に学ぶ態度」「学びに向かう人間性」を育てていこうとしています。その中で、相手の考えを受け入れ、「おりあいをつける」かもとても大切になってきます。

幼稚園の学びの中で、そのような力を子どもたちがたくましくつけていく様子を目の当たりにして、頼もしく思う日々でした。

それぞれの学年、クラスで様々な出来事や遊びの発展、そして学びや成長があった1学期でした。明日からいよいよ夏休みが始まります。

それぞれの家庭で充実した夏休みを過ごし、また元気に2学期を迎えてほしいと思います。

ご家族で、よい夏をお過ごしください。



一学期の園景

地震避難訓練、火災避難訓練、園バス避難訓練と実施しました。年長組さんがとても良い見本になってくれて、年中、年少組さんもそれぞれの良さが出た訓練ができました。

命を守る大切な訓練です。ふだんは明るく元気な子どもたちも、真剣な表情で参加することができました。

園バスには非常ボタンが設置され、子どもたちはその使用方法も学びました。



交通安全教室は、PTAの交通安全係の方にも協力していただいていた実施されました。横断歩道の渡り方を学び、実際に疑似体験をしました。一人ひとりが体験することで、緊張しながらも実践的に学ぶことができました。

安心・安全な生活を目指します。

河原遊びに寄の中津川まで行ってきました。年長組の子どもたちは、おたまじゃくしを取りに行ったときとはまた別の表情を見せていました。寄幼稚園の子どもたちとも交流しながら、水の感触や川の流を楽しんでいました。

園から持っていった大きな発表スチロールに乗って、バランスをとりながら流れていく姿に周りからは大きな歓声が上がりました。



カレーパーティーでは、園で収穫されたジャガイモと玉ねぎが使われました。ニンジンも寄幼稚園で収穫されたものをいただきました。

子どもたちは自分たちが植え付けて、収穫した野菜に愛着をもって調理していました。年間を通じた大切な食育の取り組みの集大成でした。

食育は、心の教育でもあります。畑の管理をしてくれた運転手さん等、多くの人への感謝の気持ちを忘れずに、これからも食と向き合っていきたいと思います。

夏のお楽しみ会

わくわくドキドキ、多くの笑顔が重なる夢のような時間でした。子どもたちの夢中になって宝物を探す姿に押され、いつしか雨も上がっていきました。PTA役員さんの渾身の企画でした。

保護者の皆様のご協力、ありがとうございました。

